



立山砂防事務所では、立山での砂防事業を学生に学んでもらう事を目的として、富山国際大学との連携講義を開催しました。

第1弾として、立山砂防の歴史や事業の概要について大坂事務所長が講義を行い、安政5年の飛越地震による大鷲・小鷲山の崩壊と2度にわたる大土石流の被害や常寺川の特徴、立山砂防事務所の設立と白岩砂防堰堤や泥谷砂防堰堤群・本宮砂防堰堤の建設、砂防工事専用軌道（通称：トロッコ）について学びました。

開催日：平成29年6月1日（木）
時間：13:30～15:30
場所：立山砂防事務所 第2会議室
参加者：学生4名
尾畑学部長



泥谷第1号砂防堰堤にある「護天涯」の碑



大坂事務所長による講義の様子



講義を受ける学生



尾畑学部長を交えての質問タイム

講義後に尾畑学部長（立山砂防女性サロンの会会長）を交えて行われた質問タイムでは

- ・トロッコの橋は、全て撤去するのか
- ・本宮砂防堰堤に溜まった土砂は撤去するのか
- ・立山は火山なのか
- ・今後、大鷲や小鷲は崩れる可能性はあるのかなどの質問がありました。

また、学生の出身地（京都、長崎、鹿児島、富山）の違いによる土砂災害の形態の相違について、活発な意見が出されました。

今後、富山国際大学との連携講義では

第2弾：6月8日（木）トロッコ乗車、立山カルデラ博物館見学

第3弾：6月22日（木）本宮砂防堰堤視察、立山カルデラ現地視察が予定されています。